

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本史
科目基礎情報						
科目番号	1232		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	資料を配布する					
担当教員	古川 順大					
到達目標						
1.日本列島における歴史事象をアジア史・世界史との関係の中で理解する。 2.知識基盤は重要であるが、個々の事象を丸暗記して良とせず、事象相互の関連性を流れとして理解する。 3.教養ある市民としてもつべき歴史認識を深める。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本史の基本的事項・流れが十分に理解できる		日本史の基本的事項・流れがおおよそ理解できる		日本史の基本的事項・流れが理解できていない	
評価項目2	日本史を世界史との関わりの中で十分に理解できる		日本史を世界史との関わりの中でおおよそ理解できる		日本史を世界史との関わりの中で理解できていない	
評価項目3	歴史学を客観的に十分に考えることができる		歴史学を客観的におおよそ考えることができる		歴史学を客観的に考えることができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	アジア史・世界史との関係の中に日本列島における歴史事象を位置づけて、生徒の幅広い視野や深い人間的素養を養成する。生徒が事象相互の関連性を流れとして理解して、知識偏重に陥ることなく主体的な歴史的思考力ができるようになる。自らの歴史認識を鍛えることのできる生徒を育成する。					
授業の進め方・方法	授業は基本的に配付資料とスライドを用いた講義形式で行われる。流れを重視した通史的講義の間に、テーマを掘り下げる講義を数回行う。 授業内容を確実に理解するために、板書をノートにとって復習すること。レポート課題に主体的・積極的に取り組むこと。歴史学とはどのような学問であるかについての巨視的な視座を養うことも意識して欲しい。					
注意点	前期及び後期に関しては定期試験（中間試験は実施しない）、およびレポート等から評価する。 前期成績 50%、後期成績 50%として総合評価する。（評価基準：60点以上を修得とする。） 再試験を行う。再試験は60点以上を合格（60点）とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・原始からヤマト政権の発展		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		2週	律令国家の形成過程		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		3週	律令国家（1）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		4週	律令国家（2）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		5週	中世の胎動		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		6週	鎌倉時代（1）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		7週	鎌倉時代（2）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		8週	〔前期中間試験〕		実施しない	
	2ndQ	9週	室町時代（1）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		10週	室町時代（2）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		11週	戦国時代・安土桃山時代		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		12週	江戸時代（1）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		13週	江戸時代（2）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		14週	江戸時代（3）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		15週	江戸時代（4）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		16週				
後期	3rdQ	1週	開国から倒幕		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		2週	明治維新と近代国家の成立		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		3週	日本の近代国家（1）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		4週	日本の近代国家（2）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		5週	明治時代の文化史		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		6週	第一次世界大戦		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		7週	政党政治		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		8週	第二次世界大戦への道		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
	4thQ	9週	〔後期中間試験〕		実施しない	
		10週	太平洋戦争と占領		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		11週	現代史		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		12週	世界史の中の日本史（1）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		13週	世界史の中の日本史（2）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		14週	科学と歴史認識（1）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		15週	科学と歴史認識（2）		該当時期の基礎的事象および流れを理解できる	
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0